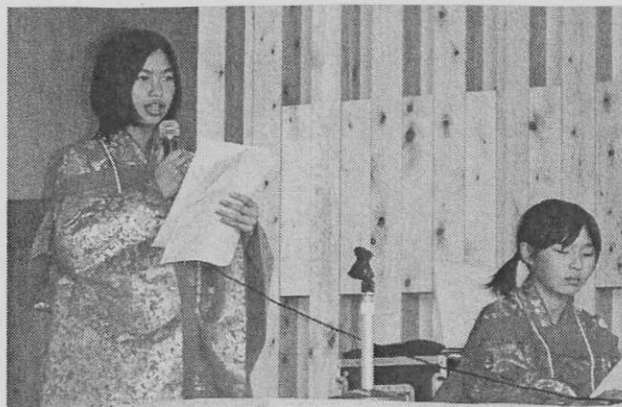


平安時代の衣装を身につけて、熊野古道の修復活動などを紹介する女子生徒—10日午後、三重県尾鷲市の県立熊野古道センター



# 世界遺産ってすごいんだよ

## 各登録地の子供たちが発表

三重

三重県尾鷲市向井の県立熊野古道センターで10日、「世界遺産子ども大使フォーラム」が開かれ、国内の世界遺産登録地から集まった子供たちが、それぞれの魅力や保存のための取り組みなどを発表し合った。

参加したのは知床、白神山、日光、白川郷、熊野古道、屋久島の6カ所の地元である8道県の小中学生18人。

白川郷がある岐阜県白川村の白川中の女子生徒らは、合掌造り家屋の保全や外国人観光客との交流などを意欲的に行う「はいー私がやります運動」の取り組みについて報告。和歌山県田辺市の三里中の女子生徒2人は、平安時代の貴族の熊野詣でを再現したあでやかな衣装を着て、熊野古道の修復活動などを紹介した。

フォーラム終了後、鹿児島県屋久島町の一瀬中2年、山尾閑君(14)は「緊張したけど、うまく屋久島の魅力を伝えられた」とにっこり。栃木県日光市の東中2年、小又千夏さん(14)は「いろいろな世界遺産で積極的な取り組みをしていて参考になった」と話した。